憲法の危機を乗り越える
9条という「要石（かなめいし）」をいまこそ力に

　衆議院選挙で改憲勢力が3分の2を占めるなか、どこに希望を見出すのか。2月11日の『建国記念の日』反対集会（主催：「建国記念の日」に反対し思想・信教の自由を守る連絡会）での東京慈恵会医科大学名誉教授の小沢隆一さんの講演（要旨）を紹介します。

東京慈恵会医科大学名誉教授　小沢隆一さん

9条は戦争を繰り返さない「壮大な実験」

　日本国憲法は、「やさしくなろうよ」と語りかける原理や原則が満載されている、そういう憲法です。

　中でも憲法9条は、作られたその時は、日本は「非武装でいこう、それでいくべきだ」という決断を下しました。その背景には、国際紛争の平和的解決を加盟国に義務付けた「国連憲章」のシステムがありました。世界がこのルールを守り、どの国も日本を侵略しようとしなければ、日本が非武装であっても何ら心配はない。これが憲法9条の見取り図でした。

　でも今の国連システムは、常任理事国が率先してその秩序を壊し、危機に瀕（ひん）しています。80年経った今から見ると、国連創設当時の決断は「あまりに大きな博打（ばくち）」に見えるかもしれません。しかし、当時の人々がなぜそんな賭けに出たのか。それは、第二次世界大戦での5000万人という途方もない犠牲があったからです。これを「二度と繰り返さない」ために、最後につかみ取った希望が、国連憲章のルールなのです。

　これは、人類がいまだ達成できていない「壮大な実験」です。

　今のウクライナを見れば、武力行使が実はいかに国境問題の解決にならないかが分かります。侵略側が優勢でも侵略された側は決して屈せず、お互いゆずる理由がないから戦争は泥沼化し、犠牲だけが増え続ける。こんな状況をなくすために、国連憲章は今なお、いや今だからこそ、託すに値する試みです。哲学者・三木清は、絶望的な時代の中で「希望は生命の形成力である」と説きました。憲法9条は、侵され続けていてもなお、私たちが手放してはならない「希望」そのものなのです。

アメリカによって壊され、ゆがめられた

　では、この9条がなぜゆがめられてきたのか。その最初のきっかけは、自衛隊の設立以前、1950年に勃発した「朝鮮戦争」にあります。ここで確認しておきたいのは、9条を最初に壊したのは自衛隊ではなく、米軍の駐留継続だったということです。

　1951年9月、サンフランシスコ講和条約締結の後、米軍が日本に居座り続けることを認めたのが日米安全保障条約。ここから9条が構想した安全保障のあり方が壊され始めます。アメリカは日本を守るためではなく、朝鮮戦争に勝つための拠点として日本の基地を必要としました。アメリカ軍が日本に駐留するのは、今でも日本を足場にして世界全体に目を光らせるためです。

　憲法制定時に吉田茂首相は、「戦力を持たない9条でもみなさん安心してください」と言い切っていました。しかし、朝鮮戦争が始まると、「非武装で日本が守れるわけがない」と、舌の根も乾かぬうちに考えを変えます。こうして、9条違反の米軍駐留を容認し、さらにアメリカの圧力を受けて警察予備隊、保安隊、そして自衛隊が後追いで作られていきました。

　自衛隊創設時に「必要最小限度の実力は戦力ではない」という理屈を後付けし、既成事実を後追いするように憲法解釈を変えてきた。この事実を私たちは今、冷静にとらえ直す必要があります。

戦後すぐから
ゆがめられつづけてきた憲法9条

1945年	第二次世界大戦終結 国連憲章ー国際紛争の平和的解決を義務付ける
1947年	日本国憲法施行ー戦争放棄の9条など平和主義　文部省『あたらしい憲法のはなし』発行
1950年	朝鮮戦争勃発　マッカーサーの指示で警察予備隊設置　再軍備へ踏み出す→52年保安隊→54年自衛隊に改組
1952年	サンフランシスコ講和条約・日米安保条約発効　米軍の駐留継続へ
1955年	憲法「改正」を党綱領に掲げる自民党発足

編集部作成

市民センター前でスタンディング（熊本・菊池支部）

平和主義だけでない人権、自由の土台

　日本国憲法は、個々の条文がバラバラにあるのではなく、一つのまとまった有機体のようなものです。私は9条を、西洋建築のアーチの中央にある「要石」だととらえています。この要石は、接着剤を使わなくても重力で全体を支える役割を果たしています。もしこの石を一個抜いてしまえば、アーチの構造そのものが一瞬にして崩壊してしまいます。

　9条を失うことは、単に平和主義を捨てることにとどまりません。9条という要石がなくなることで、憲法が支えている個人の尊厳や思想・良心の自由といったすべての人権の土台が、ガラガラと崩れ去ってしまうことになるのです。

「優しさ」こそ「強さ」を伴う

　戦後80年、日本で暮らす私たちは武器を持たず、武器の扱いを知らない市民として過ごしてきました。徴兵制のある国々とは異なり、私たちは武器を持たない日常を当たり前のものとしてきた。たとえ世界で戦乱が絶えないとしても。この歩みが生んだ「優しさ」は尊いものですが、同時に非常にもろくもあります。現在、大軍拡が進み、自衛隊がアメリカの戦略に従って戦争の当事者になりかねないような、危うい政治が進んでいます。

　本当の優しさとは、忖度（そんたく）や譲り合いではありません。自分の尊厳や他人の人権を傷つける不当な力に対し、毅然と「NO」を、歌手のAdoさんが歌うように「うっせぇわ」と突きつける強さを伴うものです。

　「強くなるためにこそ、優しくなければならない」。今の日本に必要なのは、まさにその「優しさという強さ」です。9条という「要石」を抜かせてはなりません。このしなやかなレジリエンスを持った憲法が語りかける「やさしくなろうよ」という理想を守り抜くこと。それが、混迷する時代において、私たちが展望を切り拓く確かな道なのです。

憲法を読んでみよう

新婦人「憲法手帳」
「あたらしい憲法のはなし」

「自民党『日本国憲法改正草案』と現行憲法の対照表」もあり。
★問い合わせは、班・支部・都道府県本部へ

【追記】2月14日号6面「還付申告」の記事で、医療費控除を受けられる人は「医療費が家族でおおむね10万円超の人」との解説に、次の一文を加えます。「年間所得200万円未満の人は、医療費が総所得の5%を超えた場合」。

女性　働く　月1回

弱いものをさらに弱くする消費税・インボイス制度⑤

STOP!インボイス埼玉西部　フリーライター　安田 知代

　インボイス制度のせいで、ギャラを値引きされたり仕事が減ったりして困っている個人事業主がたくさんいます。もちろん、制度を理由とする一方的値下げや取引排除はすべきでないとされ、公正取引委員会（以下、公取）が注意喚起や相談窓口の設置をしています。しかし、そのような目に遭った事業者の97%が、公取に申し立てしていない現状が、「1万人のインボイス実態調査」（※）で明らかになりました。それはなぜだと思いますか？

　理由は、「取引先との関係性を懸念」が6割と最多です。「通報して自分だと特定されたら、仕事を失うかもしれない」。そんな不安を抱くからです。取引相手に「値引きやめろ」と交渉したり、「そんな相手はこっちから願い下げだ」と居直れるフリーランスがどれだけいるでしょうか。だから不公正な取引を監視する公取のような国の機関があるのですが、そもそも相談先として思い浮かびますか？　さらに、「2社から一方的に値下げされ公取に相談したが『証拠がないと動けない』と対応してくれなかった」という声も。別の理由で発注先を変更するのは違法ではなく、「はぐらかされたら異議の唱えようがない」のが現実です。

頼みにならない公的支援

　政府は、制度の円滑な導入のためにIT導入補助金や小規模事業者持続化補助金などの公的支援があると示します。しかしこれも調査に回答した9割が利用していません。「登録も必要書類も複雑すぎてあきらめた」「根本的な解決にならない」「自分は利用対象外だった」という声が多数でした。国税庁の「Q&A」は130項目、PDF書類にして238ページあります。自分の困りごとがどれなのか、探すことすら困難です。「国税庁のコールセンターでも公取でも『よく相談してください』と言われ、もう利用する気にもならない」という人も。

　ちなみに、高市首相が選挙前に唐突に掲げた2年間の「食品消費税ゼロ%」が仮に実現されたとて、インボイス制度はなくなりません。使えない支援策しかない状況で、泣き寝入りが増えるばかりです。

国税庁サイトのインボイスQ&A。130項目も

※25年春に「インボイス制度を考えるフリーランスの会」が実施。

ホットライン

ホットラインの投稿は編集部メールアドレス s-press@shinfujin.gr.jp へ

山口　原爆の絵（原画）展と高校生のトーク

【岩国支部　山中式代】支部で原爆の絵（原画）展＆描いた高校生のギャラリートークが広島国際会議場で開かれ、14人が平和ツアーとして参加しました。

　高校生は、描いた絵の横に立ち、被爆者の方から話を聞き、「ここは首をかしげて見るよう描いた」「がれき、やけど、防空頭巾と言われても実際見たことがないので調べた」「光の色は、人によって感じ方が違うので苦労した」など工夫したことが語られました。同時に自分たちが描くことで、核兵器廃絶、平和への思いがつながるならと熱い思いを聞きました。

　今は基町高校で教えているという卒業生も参加。描いてもらった被爆者の方も「絵ができた時、うれしかった」「核兵器はなくさないといけない」と訴えました。

　原画には、被爆者の思いが伝わる迫力がありました。参加者は、実際に見て聞いたこの感動を、伝えていかなければと、これからの活動に意欲がわくと感想を寄せました。

絵を描いた高校生も▲山口

京都　宇治市のウトロ記念館へ

【府本部　柿本礼子】府本部では、次世代を集めたピースプロジェクトというチームを作って活動を続けてきました。今回は、ヘイトと平和の学習のために宇治市のウトロ記念館を訪問しました。

　副館長の話が本当に面白く、ガイドツアーの1時間はあっという間に過ぎてしまいました。

　来館するまでは、「恨み、つらみが詰まった場所」という冷たくて暗いイメージがありましたが、ツアーが終わる頃には、そんな印象は消えていきました。

　良いことも悪いことも全部飲み込んだ上で、上を向いて生きていく。茶目っ気のあるエピソードや、残された笑顔の写真に、しなやかさやたくましさと、人間らしい温かさが感じられます。

　ぜひお越しください！

副館長の話に感動▲京都

新潟　完全な給食無償化求めて

【新潟支部　飛田麻理子】支部が事務局として奮闘している、学校給食無償化を実現する新潟市民の会は、昨年12月に続き、再び、給食無償化を求めて要望書を保健給食課長に提出しました。

　12月の時は、国の制度設計がはっきりせず、マスコミ報道で4700円上限と報道されている時期でした。差額をしっかり市が予算を！と要望。制度設計がわからないから答えられないとの回答でした。

　1カ月経って、昨年末には国の制度設計が出され、5200円を国が全額負担することになりました。運動の成果だと思います。しかし、制度設計には保護者負担してもいい、無償化ではなく負担軽減だ、などと書かれ、納得できません。保護者に1円でも負担させたら無償化にはならない、完全無償化を求めます。

要望書を提出▲新潟

石川　会員宅で「おしゃべりカフェ」

【金沢支部長坂台班　安達朱美】会員宅で「おしゃべりカフェ」を開き、19人が参加。いすを並べて、身動きが取れないほどでした。

　ゲスト3人（2人は能登地震で避難して金沢に）をお迎えして、しんぶんの読み合わせや2025年の班の行事と小組の紹介のあと、手づくり料理（黒豆、なます、筑前煮、リンゴのコンポートなど）に舌つづみを打ち、一人ずつ自己紹介や新婦人とのつながりを話しました。最後に、音楽教師歴40年のゲストの指揮で、手は〝グー、チョキ、パー〟をしながら『ふるさと』を歌って散会に。

　みんなで歌うことで、参加者全員が一つになりました。一人入会がありました。

19人が参加▲石川

岡山　広くなった事務所 新小組次つぎ

【岡山支部】支部の事務所が広くなったので、いろいろな小組をと企画し、うたごえ、着付け、英会話小組ができました。

　着付けは、講師資格を持っている会員に教わり、初挑戦した人も。長い間眠っていた着物がよみがえりました。若くて細かった時代から、みなさん大きくなって、少しだけ身幅が足らなくて大笑いでした。「着物着て宣伝に行ったらいいねえ」と楽しい企画も考えています。

和服で宣伝にも！▲岡山

山梨　盛り上がった新年会

【都留支部　酒井公子】今年の新年会は34人が参加して、「美と平和」の講習会をかねて開きました。大勢の人に「美と平和」の話を聞いてもらえて有意義な時間でした。その後、小組の紹介などがあり、着物リフォームのファッションショーは、6人が何回も着替えて登場。会場は、作り方や生地のことなど質問にも答え、盛り上がりました。

　次は散策小組の有志による「マツケンサンバ」。衣装で登場しただけでわぁーと笑いが起きこれだけで成功。みんなに笑ってほしいが目的でしたから。踊る人5人、歌う人1人、楽しかったです。

　最後のあいさつで、新婦人を増やすこと、選挙のことなど話しました。

散策小組のマツケンサンバ▲山梨

愛知　新年早々 仲間が増えました

【豊川支部　宮下英津子】きさらぎ班のうたおう会は豊川駅前のカラオケ店で、月1回3時間の「お得パック」を利用して開いています。1月13日の例会は、10人が集まりました。仲間が元会員を誘って、参加した方が即入会を決めました。演歌あり、フォークありのカラオケです。うれしい会になりました。

　きさらぎ班は昨年1年間で13人の入会がありました。「親子ばと賞」を5人が受賞し、班としても健康麻雀小組で賞をもらいました。

友だちさそって▲愛知